

ユガテの森から

NO9

発行 NPO法人 西川木楽会 埼玉県飯能市大字飯能291番地 平成29年1月1日

新年あけましておめでとうございます。
会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。
また、昨年のユガテの森づくりと木工から住まいまでの木の活用に向けた様々な活動にご参加いただきまして、ありがとうございました。



昨年、ユガテの森では、その周辺への森林整備の広がりと共に、定例の木工や炭焼き窯の復興など多彩な活動や、会のこれまでの蓄積と経験を生かしたエコツアーが行われました。また、木の活用では、多くのイベントに参加して木工の作品作りや販売、西川材のジャングルジムを組み、遊び、解体することで、木の良さを身近に知ってもらうことが出来ました。これらの活動を通して、広く一般市民の方々に山のこと、木のこと、木の家を知る機会を提供できたのではないのでしょうか。

さて、四半世紀の歴史を持つ西川木楽会ですが、改めて発足時の西川青年林業会議所の会議要旨に目を通してみると、当時の山の荒廃を防ぐべく、若き担い手の育成のために地域の特性を活かした活性化に向けた議論から、西川材の地域ブランドを高めて林業の多角的な経営の必要性の提案が思い出されます。そして、最近の西川材を使うことが町づくりの合言葉の一つになっていることや、森林が木材生産のみでなく、環境的な価値を持つという意識に隔世の感を覚えます。しかし、まだまだ木材の使用量は僅かで、当初の森林の状況と変わらないことも事実です。その解決には、最も多く使う住宅に木が使いにくい現代の仕組みを、どうしたら使いやすくすることができるかにあると思います。

今年、国は 2020 年までに、建築物省エネ法で住宅の屋根・外壁・床の高断熱化と家電のエネルギー消費の基準の適合義務化を予定しています。エネルギーロスの少ない魔法瓶のような家が、地球温暖化防止に適うと考えています。一方、かつての民家のように、風通しが良く、地元の木を使い、地元の職人がつくることで、長持ちし、生産から解体までのトータルエネルギーが少ないという「気候風土適応住宅」としての道も残されました。このことが、地元の材（西川材）を使い、地元の大工職人がつくる木の家ができることで、山の再生と健康な住まいをつくる地元の産業の育成につながる、明るい材料になってほしいと願っています。

皆様にとって、健康ですばらしい年となりますことを心からご祈念申し上げます。

代表理事 吉野 勳

新年明けましておめでとうございます。今年も木楽会の有意義な活動に可能な限り参加し、皆様と共に楽しい時間を過ごしたいと考えております。ご交誼の程宜しくお願い申し上げます。

西川木楽会入会動機

元々田舎出身（群馬県渋川市赤城町）の私は、50歳の公務員自己定年時に、建築業者にカナダからログハウス資材を調達・建築してもらい、郷里近傍の赤城山中にて別荘暮らしを始めました。ゴルフ、溪流釣り、花壇や菜園づくり、木工作業、BBQ



・燻製炉その他、マンション生活では味わえない充実した趣味の休日生活を体験しましたが、何れについても知識や技術がないことに気づき、偶々同マンション居住者の木楽会員のお誘いを受け、木楽会イベントに参加させて頂き、関連技術学びと共に、「森と遊ぶ」興味から平成25年6月に入会をさせて頂きました。



入会当時の記憶ある書物

入会当時興味があり、感銘を受けた書物として、次のものがありました。

- ◇「迫り来る日本経済の崩壊」（藤巻健史著）1千兆円を超える国の借金を抱え、低金利・高福祉社会が何時まで続けられるか。また、毎年40兆円の国債を誰が買い続けてくれるのか。
- ◇「里山資本主義」（藻谷浩介）古典的な里山の経済活動を通じてエコな日本の経済活動を追及する。また、マネー資本主義へのアンチテーゼの次の課題も提案 ①貨幣換算できない物々交換の復権 ②規模の利益への抵抗 ③分業の原理への異議 この2つの書物から、現在も進行する「高福祉・少子化社会」の中で、量的緩和（貨幣流通量増加）を継続した場合、側面の違いはあるものの、ハイパーインフレを引き起こし、財政破綻する危険性が大となる。藻谷氏は、「マネー（マネー資本主義）」に依存しないサブシステムとして「里山資本主義」を構築しておこうという考え方の元に、様々な具体例を挙げている。現状施策に逆行する省マネー経済をも提案。また、お金では買えない「人との絆」及び「自然とのつながり」が里山資本主義の原点であることを説いている。日本経済の行く末について両書はある意味同じ方向を見ているのではないかと感じられる。

今後「西川木楽会」で学んでゆきたいこと

木楽会の現活動（各種作業やイベント）で、同志との協力の基での行事や作業がうまくいったときの達成感は何物にも代えがたい心地良さを感じております。

私は、今年正月で古稀を迎えます。前項の書物に触れて後、改めて老い先短い人生の今後の生き方について考えさせられました。新年にあたり、個人として今後の木楽会活動の学習及び活動方向について、次のテーマをもって経験・思考の豊富な諸先輩方々からのご指導を賜りたいと思っております。

- ①自然との付き合いの歴史・自然環境の変化及び自然保護について ②樹木の育成・保護及び活用と人間の関わりの歴史 ③マネー資本主義のアンチテーゼと言われる里山資本主義の特長の発見と実践④自然・環境保護及び利用に関する技術の習得・研鑽

前項に関連する活動等の機会がありましたら学習したいと考えておりますのでご案内下さい。

3ヶ月の記録



10月15日 ぎんなんの収穫作業



10月29, 30日 入間万燈まつり



10月29, 30日 入間万燈まつり



10月22日スマイルファミリーフェスティバル



11月13日 西川村フェアー



11月23日 天覧山谷津・里山復活祭



12月10日 忘年会

西川木楽会 3 カ月予定表 (2017年1月から3月)

月 日	時 間 帯	行 事 内 容	場 所
1月 8日 (日)	11:00から15:00	安全祈願祭・自由討論会	ユガテの森
1月21日 (土)	9:00から15:00	エコツアー「炭焼き講座1 窯づくり」	ユガテの森
1月29日 (日)	9:00から15:00	エコツアー「竹花入れを作る」	ユガテの森
2月11日 (土)	9:00から15:00	エコツアー「炭焼き講座2 炭焼き・山仕事」	ユガテの森
2月21日 (火)	18:30から21:00	理事会	富士見公民館
2月25日 (土)	10:00から15:00	ユガテの活動日	ユガテの森
3月25日 (土)	10:00から15:00	ユガテの活動日	ユガテの森
4月 8日 (土)	10:00から15:00	ユガテの春を楽しむ	ユガテの森

備考 1. 定例活動日

ユガテ：第4土曜日 任意の製材木工作業：毎週火曜日

真壁と暮らし部会：第3土曜日

理事会は原則偶数月第3火曜日

太字は臨時活動日

2. 森林・山村多面的機能発揮対策事業は別途予定で実施 ※2月中旬まで
ホームページ サイボウズ <https://cybozulive.com> 参照して下さい
3. 時間に拘ることなくご都合の良い時間にご参加いただいても結構です

お問い合わせは事務局までお願い致します

(宮島 TEL : 090-7816-8900 E-Mail: yo47miya@yahoo.co.jp)

エコツアーリズムのまち 飯能

炭焼き講座1 (窯づくり編) 炭焼き講座2 (炭焼き編・山仕事編)

1月21日 (土)、2月11日 (土)
各回9:30~16:00

ユガテの森で、炭焼き窯づくりと竹炭づくりを体験します。窯の材料は使わなくなったドラム缶、窯の材料は、竹林の整備で仕舞った竹を利用します。飯山の先人の知恵をエコツアーで学びましょう。お昼は、みんなで採りたての、アツアツうどんをいただきます。体験を通して環境保全や自然素材の良さを感じられるツアーです。

炭焼き講座の参加ですが、1回でも可。別途ご相談ください。

窯作った炭はお持ち帰りいただけます。

窯作業場まで80分程度ハイキングします。(ガイド込み)



集合場所	飯能市飯能「東雲野駅」駅前
費用	一人2,000円 同一団体の参加は一人2,000円 (ガイド、昼食、材料、保険等)
定員	15名
ガイド	小見寺 公一 (NPO法人西川木楽会)
持ち物	飲み水、帽子、軍手、雨具、タオルなど
履脚	履作場がしやすい履物、履きなれた靴、防寒着

四季折々の花を生ける竹花入れを作る

1月29日 (日)
9:30~16:00
雨天実施

自然の中で野趣に富んだ竹花入れを気軽に作ってみませんか。製作した竹花入れはお持ち帰りいただき、田舎匠の技を生けるなど、日常の生活に潤いと安らぎを感じ、心を落ち着かせましょう。昼食はキノコと地産野菜を使った味噌仕立ての鍋を一鍋に作って食べましょう。

窯作業場まで80分程度ハイキングします。(ガイド込み)

集合場所	飯能市飯能「東雲野駅」駅前
費用	一人2,000円 (ガイド、材料、保険等)
定員	15名
ガイド	小見寺 公一 (NPO法人西川木楽会)
持ち物	飲み水、帽子、軍手、雨具、タオル、 箸替え、持ち帰り用の袋など
履脚	履作場がしやすい履物、履きなれた靴、防寒着



編集後記

新年あけましておめでとうございます。

なにとぞ本年も相変わりがませずご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

今年、林業・木材関係の飛躍の年となりますよう頑張っていきたいと思っております。

宮島